

令和 8 年度 福岡県 英語教育改善プラン

目標

- 英語で進める、コミュニケーションの目的、場面、状況などを明確にした言語活動中心の授業づくり
- 児童の 4 技能 5 領域（2 技能 3 領域）をバランスよく育成する指導と評価の充実

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①児童の言語活動の割合が50%以上である学校の割合が高い状況を維持している。

授業における言語活動の割合が50%以上【県独自調査】
小5 (R7:95.5%)
小6 (R7:96.4%)

②教師の英語発話量が増加している傾向が見られる。

未だ改善が必要な点

①小中学校を通じて 4 技能 5 領域をバランスよく育成するための小中連携に課題が見られる。

学習到達目標の小中接続【県独自調査】(R7:92.3%)

②児童が慣れ親しんだり身に付けたりした言語材料を繰り返し活用する学習過程の工夫に課題が見られる。

学習者用デジタル教科書の活用【県独自調査】
小5 (R6:70.2%⇒R7:85.6%)
小6 (R6:70.3%⇒R7:85.6%)

2. 要因分析

①指導主事等研修会において、他自治体での取組紹介や指導助言の在り方に関わる演習を実施したことで、授業改善の支援につながったと考えられる。

②指導主事による授業訪問等において、教師が英語を話すことによる効果の共有や実践的な研修の実施等により、教師の英語発話量が改善したと考えられる。

①小中学校において育成する資質・能力、指導方法等について情報共有する機会が少なくなっていることが要因と考えられる。

②デジタル教科書の効果的な活用について、活用のポイントが十分に浸透していないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①-1、② 継続的な好事例の収集及び研修会における情報共有
指導主事等研修会で、各地域における実践事例や指導助言の在り方についての協議・演習を行う。

①-2、② 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用の推進
一定の英語力を有する小学校教師の新規採用のため、教員採用候補者選考試験において英語有資格者に、第一次試験の専門教科の得点に点数加算を行う。

①小中連携の推進

小中学校において育成する資質・能力、指導方法等について情報を共有し、小中学校を通じた効果的な指導につなげる。

(1) 各地区の指導主事による小中合同の取組事例の共有
(2) 中学校英語教育改善の方向性として示している「言語活動 8 2 1 プロジェクト」を参考にした小学校における取組事例の共有

②デジタル教科書を効果的に活用した授業づくりの推進

授業づくり支援動画（福岡教育大学作成）、「お役立ち！小学校外国語学習者用デジタル教科書活用ガイド」（県教育委員会作成）の活用促進を図り、各学校においてデジタル教科書を効果的に活用できるよう支援する。

※「言語活動 8 2 1 プロジェクト」

言語活動の時間 8 割以上、デジタル教科書の活用週 2 回以上、Small Talk 週 1 回以上に取り組むことで生徒・教師の英語力向上をめざすプロジェクト

令和 8 年度 福岡県 英語教育改善プラン

英語で進める即興性・発展性を重視した言語活動中心の授業づくり 学習者用デジタル教科書を活用した新しい授業観への転換

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (R7: 59.8%⇒R8: 63.0%)

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は減少したものの、60%程度を維持している。(59.8%)
※令和 6 年度比－2.8ポイント
- ②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が大幅に増加した。また、目標値を8.0ポイント上回った。(58.0%)
※令和 6 年度比+13.2ポイント

未だ改善が必要な点

- ①授業の50%以上で英語を使用して言語活動を実施している英語教員の割合が減少した。(89.8%)【県独自調査】
※令和 6 年度比－1.9ポイント
- ②授業の50%以上で英語を使用して英語教員の割合が減少した。(77.9%)【県独自調査】
※令和 6 年度比－0.6ポイント

2. 要因分析

①②

- ・令和 6 年度から県内の中学校英語教員を対象とした外国語科（英語）授業力向上実践講座を開催し、学習者用デジタル教科書を活用した授業づくりや英語で進める即興性・発展性を重視した言語活動中心の授業づくりが進んだ。
- ・教育事務所指導主事を中心として「（言語活動 8 2 1 プロジェクト）令和 5 年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）結果分析を受けた英語教育の改善の方向性について」（※随時、アップデート）を活用した指導・助言が浸透し、言語活動中心の授業づくりが進んだ。

①言語活動中心の授業づくりは進んでいるものの、学習指導要領が示す「言語活動を通して指導する」という点について、実践できていない教員がいる現状がある。「教科書を教える。」という意識が根強く残っており、授業観の転換ができていない教員がいることが要因と考えられる。

②教師による英語の発話が「25%以上50%未満」の層が、どの学年も約 2 割を占めており、「75%以上」の層よりも多くなっている。英語で進める授業の実現に向けて、教師の英語力・指導力の向上が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①② 義務教育課HP「外国語（英語）関連資料」の積極的発信と活用
- ・生徒の英語力や教師の指導力をさらに向上させるために、「外国語（英語）関連資料」（二次元コード参照）を各種研修会や学校訪問等で積極的に発信し、活用を促す。

【内容】

- ・【言語活動 8 2 1 プロジェクト】（令和 7 年度版）令和 5 年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）結果分析を受けた英語教育の改善の方向性について
- ・【中学校外国語科（英語）】モデルとなる「思考力、判断力、表現力等を測るための問題」（「書くこと」「聞くこと」）
- ・各種研修・授業等での活用に向けた外国語科（英語）関連資料分類例
- ・「オンライン英会話システムを活用したパフォーマンステストから見た授業改善のヒント」
- ・令和 6 年度外国語科（英語）授業力向上実践講座に係る授業動画参考事例（令和 8 年 3 月～令和 9 年 3 月公開）
- ・令和 7 年度外国語科（英語）授業力向上実践講座に係る授業動画参考事例

①AIを活用した英語授業モデルの構築事業

- ・英語で進める即興性・発展性を重視した言語活動中心の授業づくりをさらに進め、生徒の英語力を向上させるために、標記事業を実施する。ALTが参画する授業の充実や、ALTとのパフォーマンステスト等を実施し、生徒にとって理解、練習、実践が往還するような、AIを活用した英語授業モデルを構築することを目指す。

②令和 8 年度外国語科（英語）授業力向上実践講座の実施

- ・学習者用デジタル教科書の活用や授業観の転換、ALTの参画についてさらに周知を図り、それらを地域の英語教員に広げるために、昨年度に続き、標記講座を実施する。本年度も、第 1 回研修では学習者用デジタル教科書を活用した公開授業を通して、効果的な活用について協議することで受講者の実践へとつなげる。第 2 回研修でのグループ協議は少人数グループで受講者同士の対話を中心としたビデオカンファレンスを実施する。



外国語関連

令和 8 年度 福岡県 英語教育改善プラン

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合の向上
R7：A2以上54.9%、B1以上24.8% ⇒ R8：A2以上60.0%、B1以上28.0%
- 『指導と評価の一体化』のための学習評価方法の改善
- 生成AIを活用した個別最適化された新しい学習モデルの構築

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
R6:51.5% R7全国平均 52.4%
R7:54.9%
- ②CEFR B2レベル相当以上を取得している教員の割合
R6:82.6% R7全国平均 84.9%
R7:85.6%
- ①授業中、教員が発話の50%以上を英語で行っている学校の割合
R6:47.7% R7全国平均 37.5%
R7:21.9%
- ②パフォーマンステスト等による発信力強化に向けた評価方法の更なる推進
- ③生成AIを活用した言語活動を中心とした技能統合型の新しい学習スタイルの構築

2. 要因分析

- ①ALTスペシャリストやネイティブ英語教員（NET）等の外国人材による公開授業及び研究協議等の実施により英語授業等の改善・充実が要因の一つと考えられる。
- ②研修会等を通して、新規採用教員など資格・検定の未保有者に向けて、英語資格・検定試験の特別受験制度の活用を促進したことが要因の一つと考えられる。
- ①各種研修会等において教師の英語使用に関する講義・協議を実施したが、具体的な授業展開等に関する情報共有が十分に行き届かず、授業改善の定着につながらなかった。
- ②評価の中で定期考査の比重が高い学校が多く、指導と評価の一体化があまり定着していないことが要因の一つと考えられる。
- ③昨年度、生成AIを活用した英語教育研修会を実施したものの、生成AIの活用はまだ初期段階であり、授業実践や技能統合型の学習活動への展開には十分に至っていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①外国人材の有効活用に向けた取組の更なる推進
 - ・ALTスペシャリストによる英語イメージ教育の推進
 - ・ネイティブ英語教員（NET）によるコミュニケーション能力育成重視の英語授業の展開及びグローバルに活躍する層の育成
 - ・ALTによるオンライン英会話の実施
- ②英語資格・検定試験の特別受験制度の更なる周知
- ①②③新学習指導要領で求められる英語指導の徹底
 - ・教育課程研究集会等における指導方法の事例共有
 - ・指導力向上研修において、以下の3つのテーマで公開授業等を実施
 - （1）NETによる「英語で行うことを基本とした授業」
 - （2）ALTスペシャリストによる「教科横断・内容重視の授業」
 - （3）生成AI活用モデル校による「生成AIを活用した授業」
 - ・「実践的オンライン研修」事業の計画的受講の奨励
 - ・1人1台端末を活用した、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の奨励
- ②パフォーマンステスト等を通じた発信力強化に向けた評価方法の更なる推進
 - ・外国人材を活用した定期的なパフォーマンステストの促進
 - ・研修会等を通じた評価方法の具体例の共有
- ③『AIと創る「書く」「話す」英語学習モデル構築事業』
 - ・生徒一人一人の学習過程や到達度の可視化による個別最適化された新たな学習モデルの構築
 - ・AIライティング評価システムの導入及び学習データの集約・検証による効果的な学習方法の分析
 - ・生成AIを活用した英会話アプリの導入及び生徒の英語力の正確な把握による一人一人に応じた適切な指導

福岡県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		53.5	49.6	55.0	51.5	57.5	54.9	60.0		60.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		23.0	22.0	24.0	22.0	26.0	24.8	28.0		30.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		50.0	40.3	50.0	59.0	53.0		56.0		60.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		42.0	31.4	42.0	33.9	46.0		50.0		55.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	95.6	100		100		100		100	
		公表（％）	100	84.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	60.5	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		78.0	83.7	87.0	82.6	88.0	85.6	89.0		90.0	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		50.0	18.9	50.0	47.7	52.0	21.9	54.0		55.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		54	51.3	56	62.6	62.8	59.8	63		64	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		95	85.1	98		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	98.8	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	99.5	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	99.5	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	35.9	50	44.8	50	58	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		95	71.4	95		95		95		95	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	98.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	